

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 89

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

チャンスに恵まれた 16年間に感謝ばかりです

福岡大学名誉教授 久保 真一



私は、福岡大学で過ごした16年間(2008-24)に、様々なチャンスに恵まれました。実務では、解剖症例が多く稀な症例に遭遇できました。研究では、福岡という地域の課題解決に取り組み、①性犯罪が多い福岡の現状からデートレイプドラッグの研究、②飲酒運転撲滅をテーマに、エタノール以外の飲酒マーカーの探索に取り組みました。2017年度からは福岡大学の基盤研究機関研究所の一つとして薬毒物探索解析研究所を設置して頂き、さらに研究を発展することができました。組織の運営では、医学部長、学長補佐、日本法医学会理事長・会長、国際法医学シンポジウム会長、医師国家試験出題委員、内閣府や厚生労働省等の委員を経験できました。

最も大きな思い出は医学部長(2011-13年)をさせて頂いたことです。主な取り組みとして、①医学部長優秀学生表彰を設けました。学生を褒めて伸ばす賞として、受賞式を次年度の新入生歓迎式で行うことで、受賞者だけでなく新

入生にもやる気を出してもらおうと考えました。当時、関東の私立大学では、白衣授与式を共用試験合格祝賀式として、保護者にも出席して頂き、好評であると聞きました。そこで、②保護者を招いた白衣授与式(現在の白衣授与・Student Doctor認定式)を始めました。③学部教育、特に臨床実習、共用試験、医師国家試験に対応する医学教育の司令塔となる講座(後の医学教育推進講座)の設置に取り組みました。当時の大学執行部に繰り返し説明し実現できました。これらの取り組みは、その後、朔啓二郎先生、小玉正太先生と歴代の医学部長のご尽力によりさらに充実し、現在に至っております。

退職後は、高齢の母の介護をしながら、介護老人保健施設の医師として、第二の人生を歩んでいます。福岡大学、福岡医学会の皆さまには、様々な機会が得られたことに感謝するとともに、今後ますますのご発展を祈念しております。

福岡大学での楽しい思い出

福岡大学名誉教授 向坂 彰太郎

私は、2000年に福岡大学に赴任しました。その後、内科の統合そして臓器別再編などがあり、最終的に消化器内科の初代教授に就任いたしました。一から教室を立ち上げるにあたり、様々な困難はありましたが、診療、研究、教育にOne Teamとして新しい医局の先生方とともに協力しながら、教室が形を整えていく日々は、創造の楽しさにあふれ、やりがいがありました。また、医局旅行で沖縄、ユニバーサルスタジオ、湯布院などに行き、医局の先生方、看護師、それに医局の秘書・研究補助員の人達と、夜遅くまで飲み明かしたこともすばらしい思い出です。

医学部では、福岡大学としては初めての福岡大学医学部寄附研究講座を開設し、また、今では一般的になっていますが、授業テキストとしてPower Pointのスライド形式の教科書を学生に配布するなど、従来なかった教育の新システムの導入に積極的に取り組みました。



臨床では、2300症例の肝癌ラジオ波焼灼治療を行い、内視鏡センターの充実を図りました。また、当時の内藤正俊病院長の下、新外来診療棟（現在の中央棟）の建設に責任者の一人として従事し、地下鉄福大前駅改札口と診療棟外来の直結、スターバックスコーヒーの導入など、新しい試みを行うことのできる機会を頂きました。

このような中で、医学部ならびに病院の様々な分野の先生、職員の方と知り合う機会を得ました。

私の人生の中で楽しい思い出の日々を残してくださった福岡大学医学部に心から感謝しています。有り難うございました。

福岡大学医学会第90回例会および第47回総会

■日時/令和6年9月25日(水) 17:30 ~ 19:15 ■場所/医学部 RI 講義棟 3 階 大講堂

1. 第90回福岡大学医学会例会 【進行】集会幹事 瀧崎 慎

1) 開会の辞 集会幹事 瀧崎 慎

2) 会長挨拶 医学部長 小玉 正太

3) 第26回福岡大学医学会賞受賞論文講演 (講演15分、質疑応答含む)

① 講演者…清水 真行(再生・移植医学講座/心臓血管外科) 座長…小玉 正太

「Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2」

② 講演者…久保田 慧(筑紫病院小児科)

座長…永光 信一郎

「Natural history of cow's milk allergy in children aged 6-12 years」

③ 講演者…安心院 勇佑(循環器内科)

座長…三浦 伸一郎

「Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry」

4) 第26回福岡大学医学会賞 金賞論文投票

5) 新任教授講演 (講演25分、質疑5分)

講演者…高木 誠司(形成外科学)

座長…小玉 正太

「形成外科における創傷治癒」

2. 第47回福岡大学医学会総会

1) 議 事

【進行】庶務幹事 北島 研

① 報告事項 ② 令和5年度会計報告および令和6年度予算案 ③ その他

2) 第26回福岡大学医学会賞授賞式

【進行】集会幹事 瀧崎 慎

① 開票結果発表 ② 授賞式

3) 閉会の辞 集会幹事 瀧崎 慎



講演された先生方と
(左から久保田先生、小玉会長、清水先生、安心院先生)

救急医として 成長させてくれた福岡大学に 16年間の感謝を込めて

福岡大学名誉教授 石倉 宏恭



私は2008年4月に救命救急医学講座の2代目主任教授として福岡大学へ赴任しました。それまでは関西医科大学の救急医学の医局に所属し、福岡大学へ赴任する前は国立病院機構京都医療センターで勤務しており、福岡大学に赴任する事など全く想定してませんでした。しかし、ある日のこと神様が降臨し、福岡大学に赴任する事にしました。という事で、赴任当初はまさに『右も左も分からない』状態で、不安で一杯でした。ただ、当時はまだ40歳台であり、体当たりで色々な事にチャレンジする事が出来ました。そんな中、本当に周りの人に親切にいただき、また支えられて、私の理想とする救急医療が少しずつ浸透していったと思います。

最初は救急医の育成に奔走しました。特に学生教育の中で救急医を目指す人材を作ろうと教育に力を注ぎました。講座と救命救急センターが一体となって人材育成と教育を行うことを信念に、Bed SideやMorning conferenceに力を入れました。甲斐あって、志の高い医師が少しずつ救命救急センターに入局してくれ、徐々に人材が増えてきました。

そこで感じたことは『人は力』です。その後、高知医療センター、福岡東医療センター、田川市民病院、沖縄南部医療センター、沖縄県立宮古病院などへ医師を派遣し、僻地・離島を含めた地域医療の充実を図り、全身診察が出来る医師の育成を目指しました。2018年には欧州型ドクターカー(FMRC:Fast Medical Response Car)の運用も開始し、救急現場へ直接医師が向かい、1秒でも早く患者に対して医療

を施す、「攻めの救急」を構築しました。災害医療にも力を入れました。2011年の東日本大震災をはじめ熊本地震(2016年)や球磨川の氾濫による令和2年7月豪雨災害等の大災害に出動し、災害活動で地域に貢献しました。

何より、2019年末から世界を席巻した新型コロナウイルス感染症パンデミックの際には生命維持のために膜型人工肺装置(ECMO:extracorporeal membrane oxygenation;エクモ)での管理が必要な最重症呼吸不全患者を積極的に受け入れ、2020年7月には福岡大学病院にECMOセンターを開設し、2021年8月にはECMOカーも導入しました。

今では、福岡大学の救命救急医学講座、救命救急センターは自他ともに認める九州一の施設に成長したと自負しています。今後もこれまで以上のペースで成長し、九州は勿論のこと日本の救急医療のトップリーダーとして活躍する事を願っています。

繰り返しになりますが、福岡大学在職中はたくさんの方に出会い、本当に人に恵まれていました。『人は財産』です。今の私と救命救急センターがあるのもこの方々のお陰です。最後になりましたが、16年間の福岡大学在籍中に私を支えてくれた、たくさんの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。本当に有難うございました。

祝 第26回福岡大学医学会賞



清水 真行

(再生・移植医学講座/
心臓血管外科)

Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2
Sci Rep. 2023 Nov 16;13(1):20029



久保田 慧

(筑紫病院小児科)

Natural history of cow's milk allergy in children aged 6–12 years
Pediatr Allergy Immunol. 2023;34:e14064



安心院 勇佑

(循環器内科)

Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry
J Clin Med. 2023 Sep; 12(18): 5987

※今年度、名誉教授になられた先生方は6名です。次号の医学会ニュースNo.90で3名を掲載します。

新風

令和 6 年 4 月 1 日付けで
本学へ赴任、昇格された方に
自己紹介をしていただきました。

new phase



医学教育推進講座
教授

北島 研

この度、2024年4月1日付けで、福岡大学医学部医学教育推進講座の主任教授を拝命いたしました。学生が医療人として活躍できる20年先の医学教育の一翼を担うことができることに感謝申し上げます。さて第118回医師国家試験では、新卒合格率85.0%と全国最低を記録し、皆様にご心配をおかけしております。要因はやはり本学下位医学科生の学力不足と考えます。入学後、6年間で留年なく卒業し、医師国家試験に合格したストレート国試合格者数は、2024年卒で77名とここ10年ほどは大きな変化はありません。合格率向上のためには下位学生に学力を付けて頂く必要があります。少しでも早く医師として人の役に立ちたいと入学時に胸に誓ったストレート国試合格の思いに立ち返り、我々教員は学生と向き合って卒業時到達目標を確認しながら、正しい方向へ導いていかなくてはなりません。特に下位学生とは、学生一人ひとりと直接対話しながらどこが弱点なのかを把握し、求められるティーチャーメイドの医学教育を行いたいと考えています。当講座が、皆様の誇りとなるべく、これから精一杯努力して参る所存です。引き続きご指導のほどどうぞ宜しくお願いいたします。



救命救急医学
教授

仲村 佳彦

2024年4月1日付けで、福岡大学医学部救命救急医学の主任教授を拝命いたしました。2004年に福岡大学医学部を卒業し、新医師臨床研修制度開始時に福岡大学病院で初期臨床研修を行いました。その後は福岡赤十字病院救急部、前橋赤十字病院高度救命救急センター、日本医科大学病院高度救命救急センターでドクターカー・ドクターヘリによる病院前救護、災害医療、救急外来診療、集中治療に従事して参りました。2012年に福岡大学病院救命救急センターに入局後は、救急救命九州研修所にて救急隊、救急救命士の教育に従事し、福岡大学薬学部で急性期脳梗塞に関する基礎研究を行い、学位を取得しました。2018年からは2年間の米国留学にて基礎研究のさらなる研鑽を積みました。

各診療科が細分化・高度化していく中、あらゆる疾患の初期診療を行う救急医のニーズは増してきております。災害時の災害医療提供も救急医の大切な任務であります。これからも福岡地域救急医療の“命の砦”としての役割を果たすとともに、臨床・研究・教育をバランスよく実践し、福岡大学の発展に貢献できるよう努めて参ります。今度ともご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



精神医学
教授

堀 輝

2024年4月1日付で福岡大学医学部精神医学講座の主任教授を拝命いたしました。私は2003年に産業医科大学を卒業し、大学病院、精神科病院、総合病院で幅広い精神科臨床を学び、さらに専属産業医としての複数の企業での勤務経験もあります。最近では気分障害や統合失調症患者の診療を中心に、リエゾンにも力を入れて他科のスタッフとの連携も重視しながら診療を行っております。また統合失調症や気分障害の治療ガイドライン作成メンバーとしても精力的に活動しております。研究面では薬理学的、生物学的、リハビリテーションなど多方面からのアプローチによる個別化治療戦略をテーマに精力的に取り組んでまいり、2018年には豪州アデレード大学にも留学する機会をいただきました。教育面としては、学生教育、臨床実習における教育、若手医師教育と幅広く行っていました。2021年からは福岡大学に着任して多くの先生方に、ご指導・ご支援いただき仕事をしてまいりました。今後はそのご恩に報いると同時に、更なる福岡大学の発展に寄与できるように微力ながら努力してまいります。今後とも、ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。



脳神経内科学
教授

馬場 康彦

2024年4月1日付で、脳神経内科の主任教授を拝命いたしました。私は1997年に福岡大学医学部を卒業し、その後は福岡大学病院や関連病院で研鑽を積んで参りました。2014年から3年間は東海大学医学部脳神経内科に所属し、2017年からは昭和大学藤が丘病院で脳神経内科における診療、研究、教育に携わって参りました。私はこれまで神経変性疾患の研究を主な専門分野として取り組んでまいりましたが、日本における高齢化と脳神経内科疾患に対する診断精度の向上に伴い、アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経変性疾患が急増しています。昨年からアルツハイマー病に対する新規抗体治療が始まり、認知症の進行抑制が期待されていますが、長期的な治療効果についてはわかっていません。パーキンソン病も内服治療だけでは改善できない症状に対して、外科的治療を含めた様々なデバイス療法が開発されています。

が、疾患の進行を止めることは未だにできません。神経変性疾患の病態を多角的に見据えて、創薬や新規治療法の開発を目指した臨床研究活動を行っていきたいと考えております。福岡大学医学部と福岡大学病院のさらなる発展に貢献できるような講座を目指して精進してまいります。今後ともご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



福岡大学病院医療安全管理部
教授

小吉 里枝

この度、2024年4月1日付けで、福岡大学病院医療安全管理部の病院教授を拝命いたしました小吉里枝です。私は2005年に福岡大学医学部を卒業後、臨床研修を経て、2007年に当時朔啓二郎先生が主催されておられた福岡大学医学部心臓・血管内科学講座に入局し、臨床・研究・教育に携わってまいりました。2017年に医療安全管理部の所属となり、医療安全管理者として医療安全活動に取り組んでおります。福岡大学病院の医療安全管理部は、病院長直轄部門で、病院の理念である「あたたかい医療」のもと、患者さんに安全で質の高い医療を提供できるよう、医療環境および医療システムの改善、職員教育に日々取り組んでおり、医師、看護師、薬剤師、弁護士、事務の多職種で構成されている部門です。福岡大学病院は、特定機能病院として高度な医療を安全に提供する使命があります。医療安全管理部は、今後多職種連携をとりながら安全文化の醸成、患者中心の医療を推進してまいります。引き続きご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



筑紫病院消化器内科
教授

久部 高司

2024年4月1日より消化器内科教授(消化器内科診療部長・内視鏡部診療部長・炎症性腸疾患センター診療部長)に就任しました。

1988年に福岡大学医学部に入学し、学生時代は硬式テニス部に在籍しておりました。1994年に卒業し福岡大学筑紫病院消化器

内科に入局しました。私の専門領域は大腸疾患ならびに炎症性腸疾患で、特に大腸腫瘍に関する画像診断と内視鏡治療に注力してまいりました。また2019年4月より炎症性腸疾患センター診療部長に就任しておりますが、炎症性腸疾患の診療については集学的な診療体制が必要であり、IBDチーム医療ワーキングを通して職種や診療科の垣根を越えたチーム医療の実践に努めております。

現在私たちの消化器内科は、消化管研究室と肝胆膵研究室の2つの研究室で構成され全ての消化器疾患をカバーし、緊急の内視鏡検査や治療にも対応しています。地域医療支援病院として更なる診療体制の整備を行い、また今後を担っていく良き臨床医の育成に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



内分泌・糖尿病内科学
准教授

高士 祐一

川浪大治教授のご推挙により、令和6年4月付で福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科学の准教授を拝命いたしました。私は、平成21年に群馬大学を卒業後、東京大学腎臓・内分泌内科に入局し修練を積んで参りました。川浪教授よりご縁をいただき、令和2年4月より福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科学の一員として臨床・研究・教育に携わっております。

近年の新専門医制度により、我々の分野は内分泌代謝・糖尿病内科領域として新たにスタートを切ることになりました。これは、日本内分泌学会と日本糖尿病学会の専門医制度を統合する一大事業であったわけですが、当科はもとよりcommon diseaseである糖尿病からrare diseaseである内分泌疾患までシームレスに診療することをモットーとしており、図らずも新専門医制度の理念を先取りした形となっています。当科が対象とする疾患は全身性疾患であり、関連する多くの診療科・部門とのダイナミックな連携が必要不可欠です。そして、理想的な連携体制が福岡大学にはあります。この恵まれた環境への感謝を忘れず、我々も周術期の血糖マネジメントなど自分たちの強みを活かして、病院全体としての診療の質の向上に資することができるよう全力を尽くして参ります。加えて研究面では、全身性の臓器連関の観点から、特に骨腎連関に関する基礎・臨床研究を福岡大学の強みとして推して参りたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

医師国家試験 結果報告

第118回医師国家試験(令和6年2月3～4日実施)に126人が受験し、106人(新卒96人・既卒10人)が合格しました。合格率は84.1%、新卒のみの合格率は85.0%でした。

看護師・保健師 国家試験結果報告

第113回看護師国家試験(令和6年2月11日実施)に105人(うち既卒者1人)が受験し、全員が合格しました。また、18人(新卒)が第110回保健師国家試験(令和6年2月9日実施)を受験し、18人全員合格しています。合格率100%。



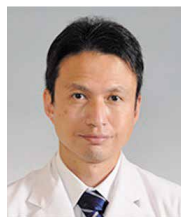
整形外科
准教授

森下 雄一郎

2024年4月から山本卓明教授のご推挙により福岡大学医学部整形外科准教授を拝命いたしました。2007年に大学院卒業後、米国UCLA(University of California, Los Angeles)で2年間のspine research fellowを経験し、総合せき損センターで14年間脊椎・脊髄病疾患の臨床と研究に携わってまいりました。

私が脊椎・脊髄病疾患を志した20年前は一昔で、この20年間で脊椎・脊髄病疾患の診断・治療が大きく変わりました。当然、これからの大きな変化・波があることが考えられます。整形外科脊椎班の後輩をこれからの大きな波に乗り遅れることなく指導していくことが私の使命と考えております。

最新、かつ適切な診断・治療を患者様に提供し、満足して社会復帰していただけるように尽力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻、どうかよろしくお願い致します。



整形外科
准教授

木下 浩一

山本卓明教授のご推挙により、令和6年4月1日付で福岡大学病院整形外科准教授を拝命いたしました。私は平成15年に福岡大学医学部を卒業し整形外科教室に所属、福大病院をはじめ、関連病院で整形外科の基礎を学びました。大学院では前主任教授内藤正俊先生が開発された、寛骨臼形成不全に対する骨盤側骨切り術(Curved periacetabular osteotomy)に関する研究を行うとともに、股関節分野について学びました。平成26年に整形外科助教に着任以降、現在まで股関節疾患および骨盤外傷を担当しております。

本邦における変形性股関節症の原因の約8割は寛骨臼形成不全によるものです。出来る限り自身の関節を温存して制限のない日常生活を送ることが出来るよう、今後も骨切り術の術後成績向上につながる研究を続けてまいります。

微力ながら医学部・病院の発展に尽力いたします。今後ともご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



内分泌・糖尿病内科
准教授

横溝 久

2024年4月1日付で川浪大治教授のご推挙により、福岡大学病院内分泌・糖尿病内科准教授ならびに副診療部長を拝命いたしました。私は2005年に高知大学医学部を卒業後、九州医療

センターで初期研修を行い、九州大学第3内科に入局して内分泌代謝・糖尿病内科医として臨床経験を積みました。同大学院へ進学して糖尿病合併症の基礎・臨床研究を行い、学位を取得しました。その後、2015年より米国ハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センター血管生物学部門へ留学し、4年半の留学中に糖尿病合併症保護因子の同定とその作用機序の解明に向けた研究を行いました。帰国後は九州大学病院内分泌代謝・糖尿病内科で診療、教育、研究に従事して参りました。2022年4月より糖尿病性腎症の診療・研究が活発な福岡大学で勤務する機会をいただき、現在に至っております。これまで培ってきた経験を活かしながら、診療、教育、研究で福岡大学の発展のために尽力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



筑紫病院・外科
准教授

宮坂 義浩

令和6年4月より渡部雅人教授の御推挙により、福岡大学筑紫病院外科准教授を拝命致しました。私は福岡大学病院開設と同じ1973年に熊本県で生まれております。福岡大学筑紫病院には2019年4月より勤務させて頂いており、肝胆膵領域を中心とした外科診療に携わっております。

私の赴任後程なくしてCOVID-19のパンデミックが起これ、手術の延期を含めた診療制限等が行われた中、当院では消化器内科・麻酔科・手術部の御協力もあり、肝胆膵分野の外科手術症例数は右肩上がりに増加しております。昨年は肝胆膵外科学会が定める高難度肝胆膵外科手術が35例に達し、本年6月より高度技能専門医修練施設に認定されております。今後は、先に修練施設として認定されている福岡大学病院本院と協力しながら、新たな高度技能専門医の育成を含めた後進の指導に注力する所存です。後進の指導における座右の銘は上杉鷹山(ジョン・F・ケネディが最も尊敬する日本人に挙げた方です)の「してみせて、言って聞かせて、させてみる」という言葉です。

今後とも福岡大学並びに筑紫病院の発展のために尽力していきます。皆様御指導御鞭撻の程、宜しく御願い申し上げます。



眼科
講師

川村 朋子

2024年4月1日より、内尾英一教授のご推挙により、福岡大学病院眼科講師を拝命致しました。私は2007年に宮崎大学を卒業し、九州大学病院、佐世保共済病院で、初期研修を行い、2009年に当教室に入局致しました。2年間唐津赤十字病院で働き、2016年まで福岡大学病院で勤務した後大学院に進み、国立感染症研究所に国内留学しました。国立感染症研究所ではアデノウイルスを中

心とした、ウイルス性眼疾患の研究を行い、2020年に福岡大学に戻り、現在に至ります。

ライフワークはアデノウイルスが関係する流行性角結膜炎、咽頭結膜熱などの研究で、いまだ治療薬の存在しない両疾患の新規治療薬開発を目指しています。臨床では角膜移植を必要とする重症角膜感染症の治療や臨床研究、未熟児網膜症を中心とした小児眼科領域にも従事させて頂いています。当教室に入局して、とても素晴らしい諸先輩方から手術や、医師としての考え方、姿勢など、たくさん教えていただきました。大学院を卒業して晴れて烏帽子会の一員になって、とてもうれしかったことを昨日のように思い出します。今後は研究と、診療、そして後進の育成に尽力し、福岡大学にすこしでも恩返しができたと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



整形外科
講師
田中 潤

このたび、山本卓明教授のご推挙により令和6年4月1日付で福岡大学病院整形外科教室講師を拝命いたしました。私は平成18年に佐賀大学医学部を卒業し、初期研修終了後、平成20年に福岡大学整形外科教室に入局しました。入局後は関連病院で部外修練を行い、平成24年4月から2年間、脊椎疾患を学ぶために飯塚市にある総合せき損センターで勤務させていただきました。総合せき損センターでは脊髄損傷の急性期治療から慢性期治療まで総合的に学ばせていただき、平成26年4月からは福岡大学病院整形外科助教に着任し、脊椎・脊髄領域の担当医師として現在まで勤務しております。大学に戻ってからは、臨床だけではなく脊髄損傷および脊椎変性疾患の研究も行い、山本教授のご指導のもと令和3年に学位も取得させていただきました。また、大学病院での勤務

務ですので、高エネルギー外傷に伴う脊椎外傷性疾患や、がん患者における脊椎転移症例などの診療も担当しており、各診療科の先生方には常日頃から大変お世話になり、改めて感謝させていただきます。今後も福岡大学の発展に貢献できるよう精進したいと考えておりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほどどうぞ宜しくお願いします。



消化器内科
講師
田中 崇

このたび、平井郁仁教授のご推挙により令和6年4月1日付で講師を拝命いたしました。私は、平成14年に佐賀医科大学を卒業後、聖マリア病院（久留米）で初期研修を行ったのち、平成16年に福岡大学医学部第三内科に入局いたしました。平成21年に学位を取得し、福岡赤十字病院、虎の門病院（東京）で修練を積んで参りました。平成26年から福岡大学病院に勤務しておりますが、平成29年から3年間は医学教育推進講座に籍を置き、医学教育に携わらせていただきました。私の専門は肝臓疾患ですが、なかでも肝臓のラジオ波焼灼術（RFA）や薬物治療の診療・研究に力を入れています。当科では肝臓に対するRFAを積極的に行っており、現在まで累計2,500例を超える国内有数のハイボリュームセンターですが、今後も安全で確実なRFAを積み重ねて参りたいと考えております。最近では肝臓の薬物治療に免疫チェックポイント阻害剤が使用されますが、様々な診療科や多職種との連携が重要であると言われるなか当院は関係各位との連携が非常にスムーズであり、大変恵まれた環境で仕事ができていることを深く感謝しております。責任のある役職に対し大変身の引き締まる思いですが、引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学位取得 次の方は、福岡大学より博士（医学）を授与されました。

課程修了による学位取得者 [令和6年3月14日付け]

- | | | |
|----------------|-----------------|-------------------|
| ・ 森田 裕一（生体制御系） | ・ 工藤 悠貴（病態機能系） | ・ 片山 栞（先端医療科学系） |
| ・ 河野 大（病態構造系） | ・ 土肥 憲一郎（病態機能系） | ・ 今給黎 宗（先端医療科学系） |
| ・ 武田 和太（病態構造系） | ・ 萩原 秀祐（病態機能系） | ・ 大西 菜月（先端医療科学系） |
| ・ 平塚 裕晃（病態構造系） | ・ 岩永 和代（社会医学系） | ・ 立花 哲郎（先端医療科学系） |
| ・ 石橋 卓也（病態機能系） | ・ 奥津 翔太（社会医学系） | ・ 永田 貴大（先端医療科学系） |
| ・ 岩下 由樹（病態機能系） | ・ 高橋 宏治（社会医学系） | ・ 御鍵 昌史（先端医療科学系） |
| ・ 小田 大嘉（病態機能系） | ・ 森永 朗子（社会医学系） | ・ 三根 かおり（先端医療科学系） |

論文提出による学位取得者 [令和6年3月14日付け]

- | | |
|----------------|-------------------|
| ・ 柴田 志保（病態機能系） | ・ 瀬戸上 貴資（先端医療科学系） |
|----------------|-------------------|



呼吸器・乳腺内分泌・小児外科
講師

中島 裕康



看護学科
講師

山尾 玲子

この度、佐藤寿彦教授の御推挙により、令和6年4月1日付で福岡大学病院呼吸器・乳腺内分泌・小児外科講師を拝命いたしました。私は、昭和薬科大学薬学部を卒業した後、平成9年に北里大学医学部に入学いたしました。卒業後は北里大学胸部外科学講座に入局し、呼吸器外科学を専攻、研修いたしました。研修医期間が終了いたしました後に、福岡大学第二外科学講座へ入局し、手術を中心に豊富な臨床経験をさせていただきました。また、大学院に進学させていただきました際には病理学を専攻し、原発性肺癌の悪性度に関わるバイオマーカーの探索を中心とした研究に従事させていただきました。大学院修了後は再度臨床に戻って研鑽を積み、現在に至りますが、研究は継続して行わせていただいております。そのような環境を与えていただいた佐藤教授には心から感謝しております。今後も大学病院の使命である臨床や研究および教育に励んでまいりたいと存じます。令和6年度は、科学研究費の申請も採択されましたため、研究に関しましても、ますます邁進してまいりたいと考えております。今後も佐藤教授が束ねられる福岡大学呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学講座に少しでも貢献できますよう精進してまいります。今後とも御指導御鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年4月1日付で、福岡大学医学部看護学科基盤看護分野公衆衛生看護学の講師を拝命いたしました。私は九州大学医療技術短期大学部看護学科を卒業し、同大学にて修士・博士の学位を取得しました。同大学病院で看護師として臨床経験を積んだ後、保健師として学生や教職員を対象とした学校保健、地域住民を対象とした地域保健、労働者を対象とした産業保健、看護職能団体における医療政策の分野に携わって参りました。大学教育においては、他大学の看護学科にて公衆衛生看護学を担当し、保健師の育成に従事いたしました。

研究においては、医療サービスへのアクセス、質、コストの三つの視点で健診データ・医療・介護レセプトデータを分析し、生活習慣病予防事業の評価や後期高齢者の終末期医療における在宅医療提供体制を主なテーマとしています。社会の健康課題は複雑化し、国民の医療に対するニーズが多様化する中で、データを可視化しながら社会の仕組みを改善し、対象者や対象者を取り巻く人々を支援できる能力を備えた保健師教育・研究に従事し、公衆衛生看護学の発展に貢献したいと考えております。

今後とも御指導、御鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

長い間ありがとうございました

令和6年3月1日～令和6年9月30日までに退職された方

■ 石倉 宏 恭 教授 (救命救急医学)

■ 川 寄 弘 詔 教授 (精神医学)

■ 久 保 真 一 教授 (法医学)

■ 向坂 彰太郎 教授 (消化器内科学)

■ 坪 井 義 夫 教授 (脳神経内科学)

■ 林 英 之 教授 (眼科学)

■ 長 町 茂 樹 教授 (放射線部第二)

■ 植 木 敏 晴 教授 (筑紫病院消化器内科)

■ 藤 岡 伸 助 准教授 (脳神経内科学)

■ 浦 綾 子 准教授 (看護学科)

■ 松 尾 邦 浩 准教授 (筑紫病院救急科)

■ 太 田 栄 治 准教授 (小児科)

■ 宮 田 康 平 准教授 (産婦人科)

■ 田 浦 政 彦 講師 (耳鼻咽喉科)

■ 原 賀 勇 壮 講師 (麻酔科学)

■ 坂 本 王 哉 講師 (筑紫病院脳神経外科)

以上、3月31日付け

■ 廣瀬 龍一郎 准教授 (総合周産期母子医療センター)

以上、5月31日付け

■ 高 山 み お 講師 (法医学)

以上、7月31日付け

■ 三 嶋 崇 靖 准教授 (脳神経内科学)

以上、9月30日付け

教室だより
Letter from a classroom

脳神経外科

医学部医学科が新設された1972年の翌年、1973年4月に脳神経外科学講座が開設されました。初代教授に九州大学から朝長正道が就任し、8月6日から診療が開始され、9月4日に脳神経外科手術第1例目（脊髄硬膜外転移性腫瘍）が施行され、9月11日に開頭手術第1例目（前頭葉神経腫瘍）が施行されました。九州大学や熊本大学からの人事協力を受けながらスタッフが増えるに連れて入院患者、手術症例数は右肩上がりに増加しました。2000年4月に第二代教授として福島武雄が就任し、脳腫瘍や下垂体手術等が積極的に行われ、手術症例数は年間300件以上に及びました。2008年4月に第三代教授として井上亨が就任し、脳血管障害、頭蓋底腫瘍などの手術症例数が増え、総手術数が年間600件以上となりました。2022年4月に第四代教授として安部洋が就任し、高難度症例に対する手術にも取り組んでいます。現在の同門会員数はのべ150人を超え、関連・連携施設は16施設となり64名の医局員がそれぞれの施設で活躍しています。

海外留学は、1974年に福島武雄が海外留学第一号としてSaint Barnabas Medical Centerに行き、現在までにCalifornia大学、M.D. Anderson Cancer Center、Mayo Clinic、Florida大学、Vienna大学へそれぞれ複数名の留学があり、今後はStanford大学への留学も予定されてい

ます。研究面では、脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄、微小解剖、リハビリ等の臨床・基礎研究が積極的に行われ、1985年（昭和60年）の第一号学位取得以降、現在までに65名が学位を取得しています。

講座開設当時の脳神経外科は、病変に対して大きな侵襲を伴う開頭手術や脊椎手術が主な治療でしたが、現在は脳血管内手術、内視鏡手術、外視鏡手術、定位脳手術、末梢神経手術などの低侵襲治療が進歩してきています。また、手術インストルメント、3Dバーチャルリアリティーや高精度ナビゲーションシステムなどの手術支援システムの開発・発展により、手術の安全性確実性が向上し、治療の標準化もすすめられています。しかし、未だ治療困難な疾患も多く存在しており、今後克服すべき領域が多いのも現状です。

当教室の理念としてCompetenceとCompassionの両立を挙げております。福岡大学が脳神経外科の最先端、そして最後の砦になるように今後も精進したいと思います。引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



教室だより
Letter from a classroom

病理学

2講座体制でスタートした福岡大学医学部病理学講座は、2002年に講座の統合が行われたのち、職員全員が一丸となり診療・教育・研究に従事しています。専門領域が多彩であるのは他大学ともしっかり異なる点ですが、各領域の最新で正確な知識が共有でき、臓器を横断する診断や研究が可能となっています。そこで培われた知識や経験は、次世代の若い医師や学部学生に教育を通してしっかりと伝えられています。各診療科との連携やカンファレンスも活発に行われるようになったことで、病理医だけでは困難な最新の臨床情報アップデートもスムーズに行える環境にあり、専攻医や大学院生の参入も継続的に対応できています。

しかしながら、大講座として運営されてきた病理学講座は専門医の在籍数は最盛期の半分以上となっており、また正確な病理診断を行うにあたって、免疫組織化学や遺伝子検査、多岐にわたるコンパニオン診断など、必須とされる診断項目が次々と増えており、その対応には多くの労力を必要としています。新病院への移動では、病理部は十分なスペースが確保できておらず、将来の拡張性が乏しい形になってしまいましたが、病理学講座・病理部の人員はいずれもプロフェッショナルとして常に研鑽を怠らない人材ばかりであり、高い技術を持つ医療技術職員や実務をサ

ポートしてくれる事務職員の創意工夫により、これまでと変わらず専門性の高い病理診断を継続しています。

病理学の根幹は病因・病態の把握であり、現在では形態学による評価のみならず、治療に直結する疾病の分子基盤を明らかにすることが求められています。基礎医学と臨床医学の両方にまたがる病理学講座で長年培われてきた病理解剖や外科病理診断による形態観察の知見、染色体異常や遺伝子異常を捉える分子生物学的解析手法は、ゲノム医療時代の診療・研究・教育にも十分対応できる基盤となっており、他施設の病理診断支援などを通じて地域医療への貢献も行っています。現在も診療・研究・教育の3つの柱を重視し、講座・病理部職員一同、従来の病理学を基礎とし、時代のニーズに合わせてさらに病理学を発展させるため、またチーム医療を担う医療人の教育・育成が実現できるように病理学の立場から出来ることを模索し、真摯に取り組んでまいります。少しずつですが、次世代を担う若い医師が当講座での研修に興味を示してくれるようになってきた点は、嬉しい限りです。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

